

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん担い手支援課)
(公 印 省 略)

営農情報 16

高品質な麦生産に向けた今後の管理について

本年の麦は、生育期間中の高温の影響により出穂期が著しく早くなると予想されます。また、産地や播種時期によっては、既に出穂しているほ場も見受けられます。

湿害による根痛みを避けるため、排水溝の溝さらえ及び排水口の整備を行い、排水対策を徹底してください。今後、「赤かび病防除」や「穂揃期追肥」のような麦の品質を大きく左右する重要な管理作業があります。特に、本年は播種時期の違いにより麦の生育が大きく異なっているため、生育に応じた適期作業の徹底をお願いします。

1 生育予測（参考）

現時点において、出穂期、開花期を正確に予測することは難しいですが、気象庁と農研機構との共同研究で公表された成果内容を参考として紹介します。

■農業分野における気候リスクへの対応の実例

「リアルタイムアメダスを用いた麦の発育ステージ予測」

アメダス観測点の気温と2週間先までの気温予測をもとに、麦の発育ステージ（出穂期、開花期、成熟期）を予測。

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

上記のHPの注意事項をご確認の上、ご利用ください。

（「リアルタイムアメダス」、「麦」で検索）

2 麦種別の赤かび病防除適期

小麦、はだか麦：開花期（出穂後7～10日頃）

二条大麦：穂揃期の約10日後（出穂後12～14日頃、蒴殻が抽出する時期）

※「ラー麦(ちくしW2号)」、「ミナミノカオリ」、「はるか二条」、「イチバンボシ」は、赤かび病にやや弱いため、2回防除を行う。

※その他の品種についても、防除実施後に降雨や曇天が続き多発が予想される場合は、1回目の7～10日後に2回目の防除を行う。

【防除に当たって注意すべき事項】

(1) 農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺ほ場への農薬飛散防止に努める。

(2) 降雨の合間に薬剤散布を行う場合、液剤は散布後に一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果があるが、粉剤は散布後6時間以内に降雨があると効果が劣るので、降雨情報に注意して散布する。

3 穂揃期追肥

- ・「ラー麦(ちくしW2号)」、「ミナミノカオリ」は、全量が目標タンパク質含有率12%を達成するよう、穂揃期追肥を確実に実施する(硫安などの速効性肥料を窒素成分で5kg/10a)。
- ・穂揃期追肥の効果が高い時期は、穂揃期(出穂後2~4日頃)~穂揃期後7日です。なお、尿素の葉面散布を行う場合は、高温時を避け、開花期と開花期後7日頃に2回、それぞれ窒素成分で2.5kg/10aを施用する。
- ・毎年、タンパク質含有率が低いほ場や穂揃期頃の葉色が淡いほ場では、日本用めん品種(チクゴイズミなど)においても穂揃期追肥を行う(窒素成分で2kg/10a)。

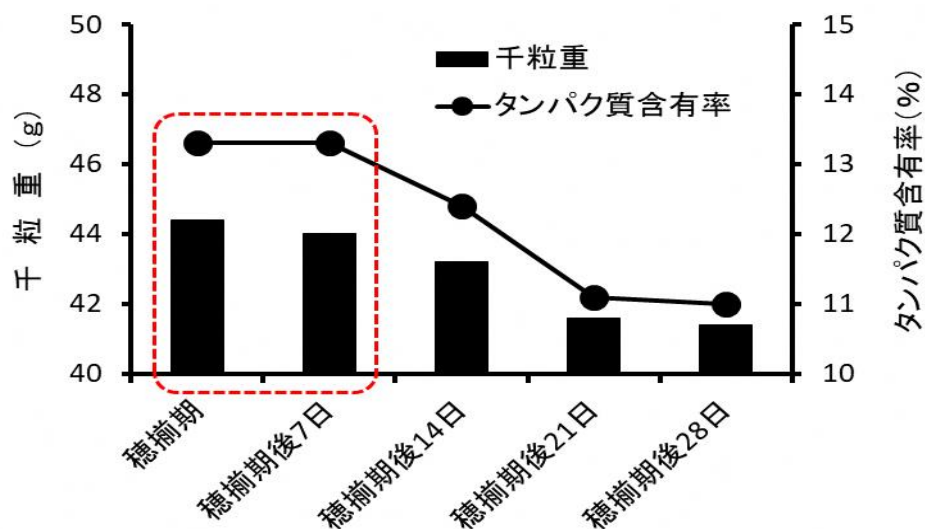
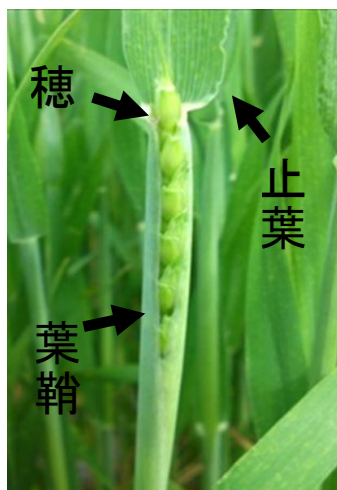


図 穂揃期追肥の施用時期別の千粒重、タンパク質含有率
(平成22~23年播; 福岡県農林業総合試験場 豊前分場)

注) 施肥量は窒素成分で、5+4+2+5(基肥+1追+2追+穂揃期追肥)kg/10a。

《出穂期、穂揃期の見方》



- 出穂とは、穂先が最上位葉の葉鞘から現れる現象
- 出穂期とは、有効茎数の40~50%が出穂した日
- 穂揃期とは、有効茎数の80~90%が出穂した日

※既に出穂したほ場では、出穂期~開花期までの日数が通常8~12日間以上に時間を要するため、出穂期、穂揃期、開花期を確認し、作業を行いましょ。

以上